

通学制大学の学生はオンライン講義で満足できたのか？

斉藤 典明

近年、インターネットを介したメディア講義が大学教育においても導入されつつあるが、2020年の新型コロナウイルス感染症防止対策により、日本全国のあらゆる大学が、インターネットを介したメディア講義を取り入れることになった。インターネットを介したメディア講義は、通信制大学における特別なアプローチと思われていたが、今回、通学制大学においてもインターネットを活用したメディア講義への取り組みを真剣に考える時期となった。

そこで、謀らずとも通学制大学の学生が半期すべてメディア講義になったため、メディア講義を受講してみた感想、本来の教室で受講するはずの講義スタイルとの比較などについてアンケート調査を行った。これを受けてメディア講義の今後の方向性について述べる。

Was the Online Course Satisfied for Regular Course Students?

SAITO Noriaki[†]

Recently, a university adopting a media course via the Internet are increasing, and this tendency became decisive in the 2020 by the COVID-19. Almost universities in Japan carried out a media course as substitute a regular course. This situation has a worth which is gazing as an online university. In this time, there was a chance that carried out an online course for regular courses students, and many comments were gathered from the students by questionnaire. In this paper, the results of the questionnaire and a future study for the online course are shown.

1. はじめに

現在、大学の通信課程においては、一定の条件のもとインターネットを介したメディア講義(以下オンライン講義とする)を実施することで、通学することなしに卒業できる大学が増えつつある。これに対して、通学制大学においては、メディア講義は教室における講義の補完的なものとして活用される事例があったのみであった。

しかしながら、2020年におこった新型コロナウイルス感染症対策では、日本全国の大学において、長期にわたり大学キャンパス内への立ち入りが制限される一方で、それでも学習を進める必要があったため、急遽オンライン講義による講義が取り入れられた。その結果、多くの大学講義においては、半期全てをオンライン講義で実施するという事例が多発した。

そこで、通学制大学の学生が、本来教室で学ぶべきことをオンライン講義で学ぶことになり、これによってどのように感じたのかについてアンケート調査を行った。本論文では、アンケート調査結果を踏まえて、今後のオンライン講義の方向性について述べる。

2. オンライン講義の要件

教室での講義をオンライン講義に置き換えるには、一定の要件を満たす必要がある。この要件は、従来から通信制大学におけるメディア講義の要件として定義されてきており、多様なメディアを高度に利用して文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うことと、該当授業の終了後にすみやかにイン

ターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答などによる十分な指導ができること。加えて、学生相互に意見交換できるとされている[1],[2]。

これを踏まえて、多くの大学では、各大学の学習管理システム(Learning Management System)を中心に、講義そのものは同時双方向あるいはオンデマンド型のビデオ配信で行い、課題の提示、収集と掲示板や電子メールなどをもちいて学生からの質疑への対応や指導をおこなう形式で実施した。この時、多くの大学では、急遽実施したため担当教員それぞれのやり方で実施されたと考えられる。さらに、メディア講義の講義時間もまちまちであったと考えられる。

例えば、大学設置基準では1単位は45時間の学習時間であるため、半期2単位の場合は90時間の学習時間である。これに対して、従来からの教室での講義は、90時間15回の合計22時間半が授業時間で、残りが予習復習などの自宅学習時間という位置づけになる。今回、急遽オンライン講義になった場合、授業時間にあわせて同時双方向で講義を実施するケース、講義内容をビデオ化しオンデマンドで配信することで実施するケース、PDF等で講義資料を配布することで実施するケースなどが確認されている。また、これらにあわせて、課題を提示し、課題の実施および指導を持って所定時間の学習とし、単位を発行していると考えられる。

参考までに、当初からオンライン講義で所定時間の学習により単位を発行している、通信制大学の東京通信大学では、1単位の標準的な講義では、約15分の動画4本と30分相当の小テストを1回分の講義とし、講義8回の受講と単位認定試験によって単位を認定している。急遽オンライン講義になった通学制大学のオンライン講義と比較すると、講義1回分の構成方法が大きく異なる。本論文では、急遽オンライン講義になった通学

[†] 東京通信大学
Tokyo Online University

制大学において学生が感じたことを分析することで、現在のオンライン講義のスタイルに縛られずオンライン講義のよりよい在り方を検討することとする。

3. 通学制大学で実施したオンライン講義

今回、新型コロナウイルス感染症対策により急遽オンライン講義を実施する機会があった。実施したのは2大学3学部（3科目）であり、2科目は演習科目でありこれまでに数年間にわたって、1科目は講義のみの科目であり1年前に1度、教室における講義実績のある科目である。オンライン講義を実施するにあたっては、例年教室で実施している内容をビデオ化してオンデマンドで配信する形態で実施した。そのため、講義内容は教室における実施とは変わりはないが、講義ビデオそのものは、学生自身が考える時間、教員が学生の反応を確認する時間、実施の遅れている学生のために教員が同一内容を複数回説明する時間などが省略されたため、かなり短くなった。

3.1 オンライン講義概要

次に、オンライン講義を実施した3科目について、それぞれの状況を説明する。

科目1は、1年次配当の演習科目である。実際は2年生以上も一定数受講している。当初実施予定だったシラバスでは、100分授業14回で2単位であり、毎回出される14個の課題と、試験相当の課題で単位を認定する科目である(表1-科目1)。これに対して、オンライン講義の実施では、オンデマンドのビデオ講義を14回配信と付属する演習課題14個と試験相当の課題1個で構成し、これにあわせてLMS上の掲示板、電子メール、時間割上の時間帯に同時双方向による質問を7回設けた。1回のビデオ講義時間は、平均約50分であった(表2-科目1)。

科目2は、3年次配当の演習科目である。当初実施予定だったシラバスでは、100分授業14回で2単位であり、随時出される10個の課題と、試験相当の課題で単位を認定する科目である(表1-科目2)。これに対して、オンライン講義の実施では、オンデマンドのビデオ講義を14回配信と付属する演習課題10個と試験相当の課題1個で構成し、これにあわせてLMS上の掲示板、電子メール、時間割上の時間帯に同時双方向による質問を7回設けた。1回のビデオ講義時間は、平均約30分であった(表2-科目2)。

科目3は、3年次配当の演習科目である。当初実施予定だったシラバスでは、120分授業13回で2単位であり、中間課題と、試験で単位を認定する科目である(表1-科目3)。これに対して、オンライン講義の実施では、オンデマンドのビデオ講義を12回配信と付属するレポート課題12個と試験相当の課題1個で構成し、これにあわせてLMS上の掲示板による質問を設けた。1回のビデオ講義時間は、平均約65分であった(表2-科目3)。

表 1. シラバス上の科目設計

科目	シラバス上(当初計画)の概要
科目1	科目種別：演習科目 対象学年：1年次 講義回数：14回(100分14回で2単位) 評価方法： 出席、課題14個、最終課題1個で評価
科目2	科目種別：演習科目 対象学年：3年次 講義回数：14回(100分14回で2単位) 評価方法： 出席、課題10個、最終課題1個で評価
科目3	科目種別：講義科目 対象学年：3年次 講義回数：13回(120分13回で2単位) 評価方法： 出席、課題1個、試験1回で評価

表 2. オンラインでの実施状況

科目	実施概要
科目1	講義方法：オンデマンド型ビデオ講義14回 掲示板・電子メールによる質疑、 同時双方向型による質疑回あり 評価方法：課題14個、最終課題1個で評価 課題締め切りは全て最終回まで 受講人数：61名
科目2	講義方法：オンデマンド型ビデオ講義14回 掲示板・電子メールによる質疑、 同時双方向型による質疑回あり 評価方法：課題10個、最終課題1個で評価 課題締め切りは全て最終回まで 受講人数：41名
科目3	講義方法：オンデマンド型ビデオ講義12回 掲示板による質疑あり 評価方法：課題12個、最終課題1個で評価 課題締め切りは全て最終回まで 受講人数：45名

3.2 アンケート実施要領

本来、教室で受講するはずであった学生が、このようなオンライン講義を受講することになったことに対して、どのように感じたのかについて調査をするために、全ての講義が終了した段階でアンケートを実施した。アンケート項目を表3に示す。回答方法は、各学生がどのように感じたのかをストレートに知るために選択肢ではなく、全て自由記述とした。回答にあたっては、アンケート回答は成績には入らないこと、アンケート結果は個人を特定しない形で論文に用いること、これらに同意できる場合にのみ回答することを説明したうえで実施した。

表 3. アンケート項目

No.	設問
1	教室での講義とオンライン講義を比較して、メリットデメリットを踏まえて、どちらが良いですか？
2	オンライン講義は、同時双方向講義 (Zoom 等による方法) とオンデマンド講義 (斉藤の形式) では、どちらが受講しやすいですか？ (他の授業で同時双方向講義を受講しなかった場合はスキップしてください。)
3	YouTuber のビデオと比べて、講義動画はどうあるべきと思いますか？ 講義動画には教員が出た方が良いのか、効果音があった方が良いのか、CG キャラクターや友達みたいな人に話してもらった方が良いのかなど。 (TV の教養番組との比較ではありません。)(普段 YouTuber のトーク系ビデオは見ない人はスキップしてください。)
4	教室での講義に比べ、オンライン講義に必要なものは何ですか？ (オンライン講義になったことで困った事などを述べてください。)
5	学生生活を考えたとき、卒業までオンライン講義だけでもよいと思いますか？オンライン講義生活で、本来あるべき学生生活の中で不足したものがあれば述べてください。
6	その他: メディア講義について気になったことなど、自由に書いてください。

3.3 アンケート回答結果

次に、アンケート結果について述べる。アンケートでは、科目 1 から科目 3 の受講者 147 名中、113 名から回答を得ることができた。回答者の科目と学次ごとの分布を表 4 に示す。学次は、学籍番号から判別したものである。1 年次は、4 月の入学以来大学の講義をオンラインで受講している。2 年次以降は、これまでに教室での講義を体験している。これまでに教室での講義を受講したか、否かにより回答内容が異なると想定されることから、今後の解析において 1 年次と 2 年次以上に分けて傾向を分析する。

表 4. 回答者数

年次	1	2	3	4	6 以上	合計
科目 1	38	12	4	0	1	55
科目 2	0	0	25	3	3	31
科目 3	0	0	25	2	0	27
合計	38	12	54	5	4	113

3.3.1 設問 1 に対する回答

設問 1 に対する回答結果を表 5 に示す。明確にどちらか一方が良いと回答した数を見ると、教室での講義が圧倒的に多いことがわかる。一方で、教室ではなくオンライン講

義の方が良いと答えている人数も一定数いることも意外な結果であった。また、科目の内容によってはオンラインでもよいという回答も一定数おり、メディア講義が教室の講義に比べて決して劣化したものではないと考えられる。

表 5. 設問 1 に対する回答

	1 年次	2 年次 以上	合計 (人)
教室の講義が良い	19	35	54
オンライン講義が良い	10	24	34
その他・ケースバイケース	9	16	25
合計(人)	38	85	113

3.3.2 設問 2 に対する回答

設問 2 に対する回答結果を表 6 に示す。圧倒的に同時双方向型よりもオンデマンド型の方が学生には受け入れやすかったことがわかる。これは回答内容を見ると、主に受講機会が融通効くためである。一方で、同時双方向型が良いとした回答を見ると、講義内容によってはオンデマンド型が適さない科目もあることが伺えた。

表 6. 設問 2 に対する回答

	1 年生	上位 学年生	合計 (人)
オンデマンド型	26	59	85
同時双方向型	2	6	8
その他	10	4	14
回答なし	0	6	6
合計(人)	38	75	113

3.3.3 設問 3 に対する回答

設問 3 に対する回答結果を図 1, 図 2, 別表 1~3 に示す。この設問は、臨時で作ったメディア講義であるが、普段から映像メディアに慣れている学生がどのように感じたのかについて調査する意味での設問とした。そのため、比較対象になるであろう YouTuber 的なコンテンツで用いられるような効果音などの有無も含めて意見を求めた。ここでの回答は単純ではないので、まずは記述内容を大まかに分類した(図 1)。

明確に現状の講義形式で良いと回答した学生が 26.5%, 設問で例示した YouTuber のコンテンツは特に見ていないので回答無しとした人が 25.7%, 現状のコンテンツに対する改善要望が 1.7%, それ以外は特に現状の講義コンテンツへのコメントではなく、一般的にメディア講義へのリクエストであった。

受講者目線でのメディア講義の作りについての意見は興味深いため、さらに分析した。設問で例示した YouTuber 的な講義コンテンツに対する是非へのコメントが目立ったため、この観点で分類したものを図 2 に示す。設問 3 で何

らかのコメントがあった 84 名に対して分類すると YouTuber 的な講義に対するコメントは特になかったのが 44%であり、それ以外は YouTuber 的な講義に対して何らかのコメントがあった。YouTuber 的な講義に対してネガティブな意見が 25%あったものの、YouTuber 的な講義に対してポジティブな意見も 7.1%いた。そのほかは、YouTuber 的な動画のなんらかの要素は取り入れた方が良くと解釈できた。

これらことから、講義動画はシンプルな作りであっても特に不満はないと思われる。特に、演出を多くすると重要なことがわからなくなるや、演出により講義時間が無駄に長くなることのデメリットの指摘が目立った。反対に、講義を視聴するための緊張を持続させるためには多少の演出が必要であると感じているコメントも目立った。

その他、回答内容は非常に興味深いものであるため、回答の原文を別紙の別表 1～別表 3 に示す。なお、回答文では明らかな誤字は修正してある。

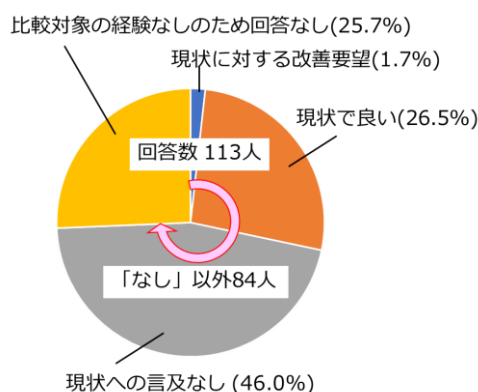


図 1. 設問 3 に対する回答内訳(1)

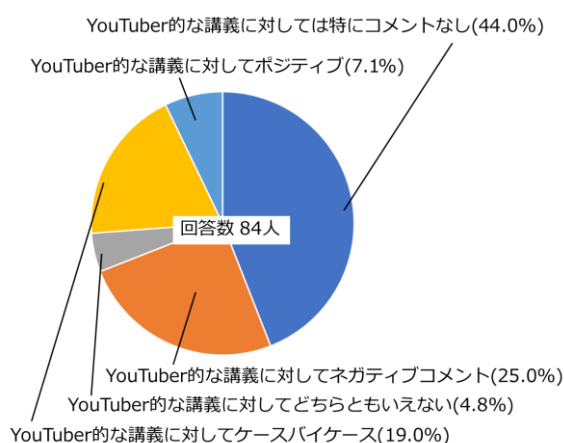


図 2. 設問 3 に対する回答内訳(2)

3.3.4 設問 4 に対する回答

設問 4 に対する回答結果を表 7 に示す。回答は自由記述のため単純には集計できないため、無回答を除き、複数の事柄を記述した回答は内容ごとに分割し、同類の項目ごと

に分類した。その結果、約 1/4 が講義についての質問のしやすさに関するものであった。その他は、講義を受けている他の学生の状況や、自分の出席や課題の提出状況のフィードバックに関するもの、課題管理や課題を理解するための記述、講義動画へのリクエスト、通信環境へのサポートなどもあった。このうち、特に質問のしやすさについては優先的に検討する価値があると判断できるため、回答文の原文を別紙の別表 4 に示す。

表 7. 設問 4 に対する回答

No.	分類	人数
1	質問のしやすさに関して	24
2	講義を受けている友達の状況・場の雰囲気に関して	9
3	フィードバック・確認に関して	9
4	自身の能力・課題管理・取組時間に関して	15
5	オンライン講義に適したコンテンツに関して	10
6	受講環境・トラブル時のサポートについて	25
7	集計対象外のコメント	9
合計 (延べ人数)		101

3.3.5 設問 5 に対する回答

設問 5 に対する回答結果を表 8、表 9 に示す。まず、大学講義を全てオンライン講義で実施されることへの賛否であるが、通学制大学なので圧倒的に否定的であった。一方で、実験などの一部の科目を除けば全てオンラインでもよいのではないかと、という意見があることが意外な結果であった(表 8)。

また、多くの回答には、そのように回答した理由が述べられており、これらの理由を分類したものを表 9 に示す。この中で、全てオンライン講義化されるとサークル活動の機会などを含めて人間関係が学べなくなることや、友人と相談するなど学習効率の面での影響、オンライン講義に適した講義だけになり内容が制限されるデメリット、精神的な辛さや図書館などの大学設備が使えない、生活リズムがつかめないなどのデメリットが述べられていた。

これらの理由は、講義を受けるという以外に通学制大学の学びとして期待している事柄である。別の見方では、通学制大学とオンライン大学の学費の差分と考えられる。

表 8. 設問 5 に対する回答

	賛成	状況 次第	反対	不明	合計 (人)
1 年次	0	3	35	0	38
2 年次以上	8	13	48	6	75
合計(人)	8	16	83	6	113

表 9. 設問 5 の理由

No.	分類	人数(人)	割合(%)
1	人間関係	53	39.0
2	学習効率	22	16.2
3	学習内容	20	14.7
4	精神的な問題	9	6.6
5	設備	7	5.2
6	生活リズム	6	4.4
7	費用対効果	4	2.9
8	オンライン反対だが理由なし	4	2.9
9	オンライン学習に不足なし	9	6.6
10	無回答	2	1.5
合計(延べ人数)		136	100

3.3.6 設問 6 に対する回答

講義に対する個別コメントなどが多く、今回の分析には適さないもので、取り上げないものとする。

3.4 課題への取組状況

次に、オンライン講義の受講について、アンケートの回答内容について実際の取組状況を確認するために、課題の提出状況を確認した。受講者数とほぼ毎回出される課題数をかけたものを 100%とし、提出された課題の数の割合を表 10 に示す。なお、科目 1 と科目 2 は、オンライン講義を行う前年以前に同じ内容を教室で実施しているため、その時のデータと比較した。

いずれの場合も、教室での実施とオンライン講義の実施において高い提出率を示しており、受講生は適切に講義を受講できたと判断できる。また、受講生それぞれがどのくらい課題を提出できたかについて図 3, 図 5, 図 7 に示す。科目 1 と科目 3 はほとんどの受講生が全ての課題を提出している。科目 2 は全ての課題まで実施した受講生が一番多いが、全て出せなかった学生も一定数いる。

次に、受講完了までに、それぞれの時点で課題を提出したのかについて分析したので図 4, 図 6, 図 8 に示す。オレンジ色の線は遅滞なく課題を提出した時の計画値であり、青色の線は実際の課題の提出状況である。科目 1 と科目 3 は半数が科目終了の直前 2 週間で提出されており、科目 2 は科目終了の直前 1 週間で提出されている。

課題の提出状況を見ると、課題の実施が平準化されていないことがわかる。この意味は、オンデマンドのオンライン講義では自由に学べる反面、課題管理が難しいことがわかる。一方で、受講が遅れていてもキャッチアップして最後までやり通すことができるとも言える。

表 10. 課題提出率と過去との比較

	2020 年	2019 年	2018 年	2017 年	2016 年
科目 1	95.0%	90.8%	90.4%	86.9%	86.5%
科目 2	74.6%	63.9%	80.0%	91.3%	83.0%
科目 3	90.4%				

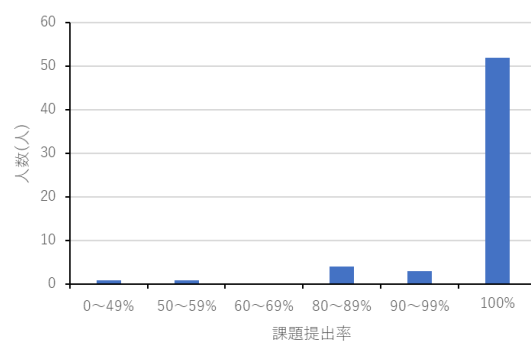


図 3. 科目 1 の課題提出率の分布

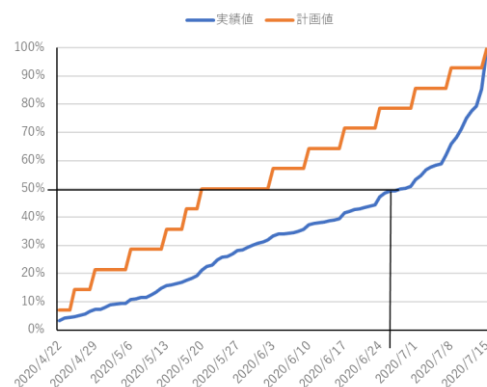


図 4. 科目 1 の課題提出時期

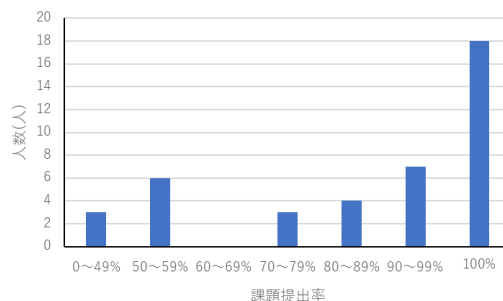


図 5. 科目 2 の課題提出率の分布

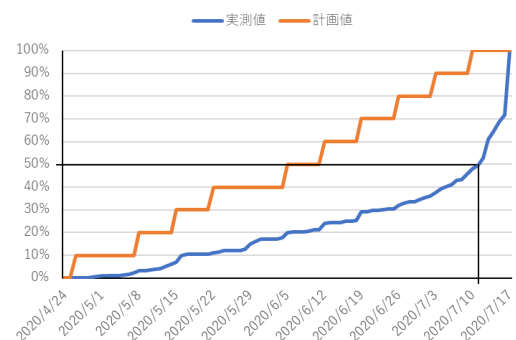


図 6. 科目 2 の課題提出時期

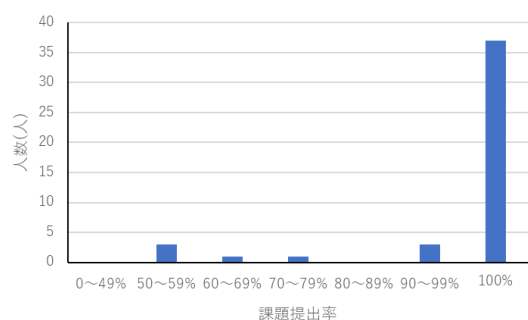


図 7. 科目 3 の課題提出率の分布

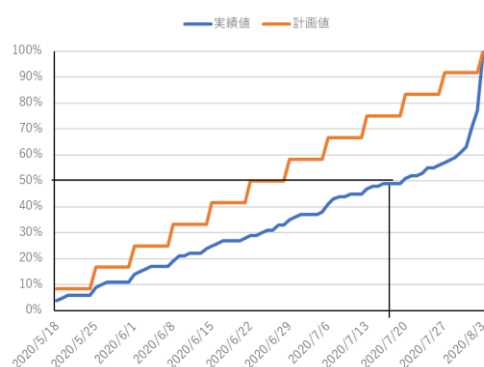


図 8. 科目 3 の課題提出時期

4. 考察

以上の通学制大学におけるオンライン講義の状況を踏まえて、オンライン大学の講義の在り方について考察を行う。

今回通学制大学の学生が意図せずに全てオンライン講義を受講することになった。毎年教室で実施していた講義内容をビデオ化したオンライン講義の内容そのものについては特に大きな問題や、受講上の問題はなかったと判断できる。一方で、大学の LMS に設置された掲示板や電子メール、同時双方向による質問ができるものの、教室における講義とは異なり質問のしにくさを感じた学生が多かった。メディア講義の在り方として掲示板等を設置しているが、学習を効率的に進めるという意味において、まだまだ何らかの改善が必要であると考えられる。

他に、通学制大学の学生は、大学で学ぶことの意義として人間関係をあげている。オンライン大学はメディア授業以外のサポートはほとんどないので、通学制大学がこの部分で十分にサポートできなければオンライン大学と同等の価値になってしまうことも懸念される。同時に、オンライン大学は、最近 SNS も含めてオンラインによるコミュニケーションツールが発達してきていることも踏まえて、オンラインによる人間関係構築の仕組みをより積極的に実現できる新しい価値を見いだせば、通学制大学と同等の位置づけの大学になりうる可能性を示していると考えられる。

最後に、今回の通学制大学でのオンライン講義と、当初からオンライン大学として実施している東京通信大学にお

けるオンライン講義の作りの違いについてまとめておく(表 11)。東京通信大学のオンライン講義では、一般的に多くの学生が長時間の講義動画を視聴することには耐えられないという理由から、1 回の講義を 4 本の動画に分割して作成している。教員各自が作成した PowerPoint 資料を使って、専用スタジオと専用の機材を使って撮影し、専門スタッフが編集したものを専用の LMS に設定している。学生は専用の LMS にアクセスし視聴する。視聴においては出席確認および適切な学習時間を確保しているという確信をとるために、初回の講義再生において動画を操作できないという制限を行っている。一方、今回の臨時で作成したオンライン講義では、教員が作成した PowerPoint 資料を使って、一般的な PC を用いて自宅で講義動画を作成した[4]。作成した講義資料は LMS に設定し、講義動画は YouTube に設定した。学生は LMS から講義資料を参照し、講義資料にあるリンクを辿って YouTube 上の講義動画を視聴する。講義動画は YouTube のため講義動画は操作可能であるため、講義の区切りの良い時に動画を止めて休憩をとるように指示を行うことで、長時間の動画視聴によるストレスを回避することとし、特に動画の分割は行わなかった。

今回、普段オンライン大学でオンライン講義の教材を作成している教員として、自分自身の工夫で自由にオンライン講義のコンテンツを作成できるようになって感じたこととして、科目の特性も踏まえた上でより的確に学べる講義コンテンツを効率的に作成するための検討課題があることもわかった。これらについては、今後の検討課題とする。

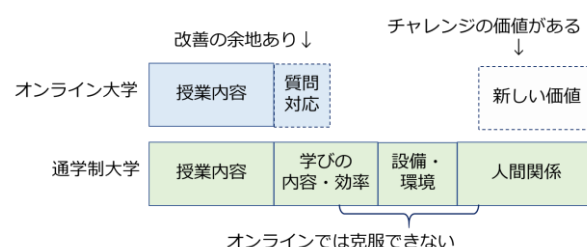


図 9. 今後のオンライン大学に望まれる領域

表 11. オンライン講義の違い

	主な相違点
東京通信大学	・1回の講義が 15 分程度の 4 本の動画 ・動画再生において初回は操作不可 ・独自 LMS による講義資料と動画配信 ・講義動画は専用スタジオと機材で作成 ・講義動画は専門スタッフで編集
今回	・1 回の講義が1本の動画 ・動画再生において初回から操作可 (15 分程度で適宜休憩を指示) ・講義資料は LMS で動画は YouTube で配信 ・講義動画は教員自宅にて PC で作成 ・講義動画は教員が編集

5. おわりに

これまで、インターネットを介したメディア講義は、通信制大学における特別なアプローチとされていたが、新型コロナウイルス感染防止対策により、多くの大学がメディア講義を取り入れることになった。

そこで、通学制大学の学生が半期すべてをメディア講義で受講してみた感想と、本来の期待する学びとの差分についてアンケート調査を行った。その結果、メディア講義に対する受容性は比較的良かったものの、質問のしにくさがあること、オンライン講義だけになってしまうと、大学の学びの1つである人間関係を学ぶことができないことが指摘された。これを受けてメディア講義の今後の方向性について述べた。

謝辞

アンケートに協力していただいた学生みなさんに感謝いたします。本研究は JSPS 科研費 JP19K12279 の助成を受けたものです。

参考文献

- 1) 大学設置基準第二十五条2
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=331M50000080028&openerCode=1 (2020/9/3)
- 2) インターネット等活用授業の遠隔授業としての位置づけ,文部科学省平成 12 年 11 月 22 日大学審議会答申(抜粋),http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1318742.htm (2020/9/3)
- 3) 特集 コロナで激変! 大学 序列 入試,週刊ダイヤモンド 2020 8/8.15 合併号
- 4) 斉藤,家撮り教材作成のポイント,
<https://sites.google.com/view/iedori/> (2020/9/3)

Appendix

別表 1. 設問 3 YouTuber 的な講義に対するネガティブコメント一覧

1	もちろん分かりやすいのに越したことはありませんが、普段 YouTube で見るものは娯楽のために見るものであって効果音や BGM があって編集が加わっている方が楽しめますが講義動画に関してはその必要はないと思います。
2	私は前期の先生の授業のような講義の動画が受けやすかったです。 特に効果音とかはなくていいと思います。
3	今回のままで十分だと思います。 初めの方はどのような方が授業をしてくださっているのかを知るためにも教授が出ていただいた方がよいと思いますが、後半の方では今回のように実演などの画面共有だけでも良いと思います。 正直、大学の授業なので Youtuber の方たちのようなエンタメ性はそこまで必要ないと自分は思っています。
4	Youtuber の動画に似せるべきではなく、現在の動画の構成のままで良いと思います。 Youtuber はおもしろいことをしているのであって、動画内で内容に波があり、編集もその波に合わせて強調したりしていると思います。 課題の解説を中心にしている、この講義の動画は今までのように波のない動画で良いと思います。 変に Youtuber に寄せると講義の内容を理解するのに支障が出てきてしまいます。
5	Youtube の動画は実は中身(本題)に入るまでに余計な肉付けがあり、授業でそのようなことはあってはならないと思うので、講義動画は、簡潔にシンプルでかつ短時間であるのが望ましく思えます。 実際に同じ形式で1時間以上の講義動画がありましたが集中するのはかなり至難の業でした。
6	授業の講義においては、今学期の当授業のように必要に応じて教員が出たりした方がよいと思う。 また、YouTuber のようにエンターテインメント性はいれず、効果音などがあると履き違えてしまうことがあると思うので、シンプルでいいと思う。
7	抑揚、緩急をつけるといいと思う。人やキャラクターを出さなくても話し方次第で聞きやすさは変わってくるからだ。 またテロップや字幕があると聞き間違いにより誤解が生じることも減る。 講義なので飾が多いと、画面内の情報量が多くなり、混乱を招きかねない。
8	今のパソコンの画面を写すのが、見やすくわかりやすいと思います。 特に、実践の時パソコンの画面を写すのは、ワードではその項目をどこから出せばいいかわからないときがあるのですがそこで確認できるのでありがたいです。 顔は出さなくてもよいと思います。 効果音やCGキャラクターがなく、そのまま話される形の今の方が実際に教室で授業を受けている感じがするので良いと思います。
9	ワイプで先生が出ているのはありかもしれない。 だがユーチューバーのようにカット割りされたり効果音をつけたりされると、気が散るかなと思う。 そのまま流してもらって、その場で話しているものの延長である方が聞きやすい。
10	今までの斎藤先生がやられていた形式の講義動画のままで(特に効果音やキャラクターなどもない動画で)いいと思います。 個人的にはすごくわかりやすくいいと思います。
11	講義動画を YouTuber と同じ風にするると自分はメリハリがつかなくなってしまうかもしれないかなと感じました。 なので、講義動画に関しては今まで通りシンプルなものでいいのかなと思います。
12	講義動画に必ずしも教員が出た方がよいとは思いません。 また、効果音や CG キャラクターも特に必要だとは思わず、話す言葉は敬語でよいと思う。
13	講義動画には効果音や CG キャラクターのようななくても良いものは必要ないと感じた。
14	講義動画では教員の方はずっと出る必要はないように感じた。 効果音や CG キャラクターなどを使うと逆に集中できないので、スライドだけのシンプルな構成が良いと思う。
15	Youtube の場合、配信者側は視聴回数を増やすことが目的でそのために CG キャラクターを使って面白く講義をしたり、友達みたいにフランクに話すことで視聴者層を広げているのだと思います。 ですが、講義は受講する人は一定ですし、講義の仕方が面白いからではなく講義の内容で受講するか決めると思うので、Youtuber みたいにする必要はないと思います。 効果音も、要点がわかりやすくなり、集中して聞くべきところが分かったといった利点があると思いますが、使い方を気をつけないとただうるさいだけになってしまうので注意が必要だと思います。
16	勉強のための講義動画で youtuber のトーク系のビデオのように効果音や CG キャラクターなどがあると情報量が多くなる気がするのでシンプルに講義資料と講義用の音声だけでよいと思う。
17	講義動画は Youtuber の動画とは違うので寄せる必要はない。
18	YouTube のような凝った演出は私は必要ないと考えます。
19	特に効果音などはいらないと思いました。 今講義を PC にイヤフォンをつけて受講していたのですが、急に効果音など大きい音が聞こえてくと耳が痛くなるので、いらないと思います。
20	あくまでも講義であるので、派手な効果音とかは以て然らぬと思うし CG キャラクターを使う必要もないと思う
21	昨今の YouTuber の流行りに乗って友達みたいな話し方にするのは問題になってしまうかもしれない。 大学の講義はお金を払って授業を受けるので、YouTube などの娯楽コンテンツとは一緒にしない方がよい。

別表 2. 設問 3 YouTuber 的な講義に対するポジティブコメント一覧

1	YouTuber のトーク系ビデオをたくさん見るわけではないが、それらと比較した際に特別現在の講義スタイルを変えたほうが良いとは思わなかった。ただ講義は必ず受けるべきであるものという認識に対して、YouTuber のビデオは見たくなってしまう、興味を持ってしまう人間の心理に基づいて工夫して制作されている。 この点を踏まえたとて生徒の立場から意見を述べるとすると、講義に少し楽しい工夫が凝らしてあるのもっと興味をもって受講できるのではないかと思う。
2	Youtuber のほうが話も面白いし見てて楽しみながら勉強できると思います。 講義などでも効果音や字幕など、話し方等も Youtuber みたいにすると見ようと思えると思います。
3	編集を行い、効果音などをつけたほうが飽きずに動画を見ていられると思う。
4	講義も一つのエンターテインメントとして、Youtuber の様に面白くしていくべきだと考える。 講師の目的は講義ビデオを学生に届ける事でなく、学生の理解を深める事だと思うので、講義動画も魅力的に感じる様な工夫をする必要があると考える。
5	私は楽しく授業がしたいためもっと柔らかくやった方がいいと思ったしょうがないと思うが楽しくやった方が身につくと思うそして出席もよくなると思った講師の方は教える立場のため難しいと思うが現代の学生は私含めそう思っていると思う
6	楽しく見られるということでは CG キャラクターなどによる授業は見てみたいです。 興味もわきやすいと思います。 私個人としては、リモートではどうしても眠くなってしまうこともあるのでテンションを高めにしゃべっていただけるとありがたいです。

別表 3. 設問 3 メディア講義に対する一般的コメント一覧

1	講義中たまに文字がはっきり見えない時があったので画質の改善が必要
2	教室での双方向的なものと違い、一方的な講義動画は 30 分以上あると集中力が切れてしまうのでなるべく簡潔に、もしくは喋っている言葉のテロップを入れたり効果音があると良いと思います。
3	字幕があると、とても助かる。
4	教員の解説付きが分かりやすかったです。 効果音はあってもなくても理解度は変わらないと思います。
5	教員が出るかどうかはどちらでもよいと考える。 その他工夫に関しては授業内容が分かりやすくなるため良いと思うが、無くても特に問題なしと考える。
6	先生がずっと出ているよりかは資料が提示してあるほうが分かりやすい。
7	話しかけてくれるような感じだとやりやすいです。 堅い感じだと、飽きてしまいます。 教員は出ていても出ていなくてもどっちでもいいと思いました。 効果音はいらないと思います。 YouTube は画面の拡大がやりやすいのでできないので、講義は、文字をはっきりとわかりやすくするべきだと思います。 あとはっきり大声でしゃべってほしいです。
8	あくまで講義動画であるため効果音などはかえって邪魔になってしまうと思う。 ユーチューブの動画は相手を楽しませるために工夫がされているが、授業は笑わせたりするのが目的ではないため余計なものはいらない。 ただ、ほんの少しイラストを入れるのは良いと思う。
9	講義はあくまでも講義なのであまり YouTuber のような動画形式は必要ないと感じました。 多少の遊び心は生徒も少し楽しくなるかもしれないです。
10	今回の授業の形式がとてもよかったです。 たまに先生がうつって話してくださり、授業中はスライドのみをうつしてくださったので授業として受けやすかったです。 効果音は他の音が聞こえなくなれば入るとより素敵なものになると思いますが聞こえなかったらと思うと不安になってしまいます。
11	普段、YouTuber のトーク系ビデオはあまり見ないのですが、教員がでなくても授業が成り立つ場合には、出なくても良いと思います。 CG キャラクターなどによる講義は聞き手の興味を引くうえで効果的だとは思いますが、本来大学で受けるべきはずであった講義という視点から見ると、無理に使用する必要もないと思います。
12	講義で教員が出演したほうが良い。 声だけで飽きてしまうこともあった。ただ、効果音は必要ないと思う。 テロップは重要な事柄を言うときには効果的ではないかと思う。 CG キャラクターや友達のような存在があれば面白くなると思うが、講義という真面目な場面での使用は必要ないかもしれない。
13	最初に顔出しのあいさつがあるといいと思った。
14	講義では要点が伝わればよいので何でもよい。
15	先生の動画は教科書を見てやるよりわかりやすく、見ないとポイントが分からない場合があったりと、見ることに意味がある内容であると思うので効果音等があった方が見やすいと思う。 また、授業には先生が出ていた方が説明という印象が薄くなるのでいいと思う。
16	今のままでも問題ないと感じたが、オプションの字幕(youtube の機能)があると便利だと思った。(聴き取れない単語がいくつかあったため)
17	普段 youtube のトーク系ビデオを見る時は配信主の反応等も目的に閲覧をしている。 講義の動画であれば教授の反応等は必要ないと思うので教授が出る必要がないと感じた。ただ出た方が親近感とかは湧くと思う。

18	YouTuber のように身近に感じられるなど親近感が湧くようなスタイルの授業はおそらく大学の授業では必要はないのではないかなと私は思います。 もっと、YouTuber のように明るくポップな動画の方がいいと思う学生も多いと思いますが…。
19	講義では効果音や友達のような話し方は必要ないと思います。 YouTuber は再生回数を稼ぐために見ている人が楽しくなるような様々な工夫をしていますが、大学の講義は、論理的思考を必要とする学問の分野なので教員から直接、学問らしい言葉遣いで説明を受けるべきだと思います。 しかし、重要項目を強調するためにテロップを入れるなどの工夫は YouTuber から取り入れても良いのかもしれません。
20	途中から導入されたブレイクタイムの挿絵が良かった。 個人的には3次元より2次元が好きなので、イラストがあるものを多く見る傾向にある。また、テンポが悪いと、見る気を失ってしまう。 声や動き(テロップや挿絵、実写であればその人物)に魅力があったり、話の中で面白い(興味深い)展開・話題があると分かっていたりすると、長時間でも見ることができると考える。
21	講義の動画として、先生の行っていた形式は個人としては非常に良いものだと感じました。 Youtuber のビデオは、興味を引くような SE などのエフェクトを多く用いていますが、これが多すぎる場合にはしつこく感じてしまう可能性があるかと個人的には考えています。 ただ、もし変化をつける場合には、FaceRig などを用いる事で変化を加えるのも面白いと考えます。
22	教員が出た方がよいと思う。 用意できるならばホワイトボードや黒板などの板書の要素が欲しい。
23	重要な部分には効果音があった方がわかりやすいと思いました。
24	配布資料に書き込んだりするようなものができればいいと思います。 あとはパワーポイントであればアニメーションをつけるとかあってもいいと思います。
25	たまに聞き取れない箇所があるので、字幕などをつけて欲しいです。
26	講義動画に教員はたまに出た方がよいと思った。東進などの大学受験塾のオンデマンド授業のような動画だと緊張感がでていいと思った。あまり編集はしない方がいいと思う。 オペレーティングシステム演習の動画は塾の動画に似ていて馴染みやすかった。
27	講義動議には先生が出てもらったほうが生徒には良いと思った。 効果音やCGキャラクターの有無についてはどちらでもいいと思った。
28	教員が画面に登場し、講義資料を画面共有して講義するのが 1 番良い。
29	教員は出た方がよいと思う。その方が教室の授業にある緊張感が出ると思う。
30	オンライン上であれば必要ないことは導入する必要はなく端的な内容であれば良いと考える。
31	教員が出た方が一定の緊張感があり良いと考える。
32	先生の姿でだけが映っているだけでずっとしゃべっているだけのビデオはどうしても集中しきれなくなってしまう。 何かアクセントなどが必要だと思います。
33	教員が出る必要はない。また、キャラクターや効果音は授業が分かりやすくなるならいいと思う
34	普段そういったビデオをあまり見るわけではないが、効果音などの特殊効果が効果的に作用する場合も少なからずあるので無理のない範囲で試すのは良いと思う、教員の顔はあってもなくても大差はなさそうに思う、キャラクターに関しては大学の講義なのだからある程度真面目な方が個人的には良いが、ニュースで見た限りでは女の子の CG モデルを使ったおじさん教師は好意的に受けられていたようなので遊び心は意外と受け入れられるものなのだろう。
35	BGM は欲しいかなとか思ったりしました
36	講義は YouTube の動画のように効果音や無駄な情報は入れない方がいいと思う。 おそらく多くの生徒は必要な部分だけ動画をスキップして閲覧するため、講義資料の大事な部分はわかりやすくしているとうれしい。
37	再生に時間がかかることもあるため、あまり動画を重くしないでほしい。 時間がかかりすぎても動画が見づらくなるのでテンポよく授業してくれると分かりやすい。

別表 4. 設問 4 の「質問のしやすさに関するもの」の該当箇所一覧

1	気軽に質問ができる環境。 わからないところがあれば自分で調べて「たぶんこうだろう」と納得してしまう。
2	教員のメールアドレスを公開し、生徒が個人的な質問・相談も気軽にできるようになればいいと思った。
3	オンライン授業で困ったこと 質問の回答にタイムラグが生じること。
4	オンライン講義になったことで分からないところの質問をすぐすることができないところが困っていたことです。
5	オンラインでは直接質問するのが難しいため、質問を書き込む掲示板やあらかじめ生徒が混乱しそうなことや質問がありそうなことはまとめとして、事前に対処法をのせておくのが良い
6	質問をしやすい環境
7	一番困ったことはすぐに質問できないことだった。履修する友達を見つけてからは、質問もしやすくて助かった。
8	生徒と教授の意思疎通
9	質問がしにくかったです。
10	授業への質問などを毎回取って、講義の最初に取り上げることだと思いました。
11	講義によっては受講者が質問できる体制が十分に整っていない科目もあるので質問できずに困ったことがありました。
12	自分はどうしても消極的になってしまう人間であるため、オンラインでの生活になってからはそれに拍車がかかり、より質問などを避けるようになってしまいました。 (本講義に限らず) これが困ったことでした。 これに対し、掲示板機能を匿名化するなどの対応が個人的に欲しいと感じました。
13	オンライン講義では教室での講義に比べて、質問がしづらいと思います。 なので、掲示板で質問の受付をしていただいていたのはありがたかったです。
14	質問ができる環境です。 リアルタイムな返答でなくてもよいのですが、メール等での質問受付があるとよいと思いました。
15	より気軽に学生が質問の投稿を行える掲示板のようなもの。
16	オンライン講義では、相談しながら授業に取り組めるといった、教室で行うことのメリットを取り込む必要があると思いました。実際に掲示板にこれを可能にする機能があると思うのですが、書き込むことへのハードルが若干高くなってしまっているのではないかと個人的に感じました。このことから毎回の授業別にスレッドを立てていただくと改善するのではないかと思います。
17	もしも教室での講義において今学期のような課題を授業内でやるようだったら複数の TA などの困ったときにすぐに聞くことができる人がほしい。そういうシステムがあるとよいと思った。
18	質問のしやすさ必要だと思った、TA など近い年齢の人や友人なら質問がしやすいまた緊張感が必要だと思った。
19	学生からの質問に対するレスポンスの速さ。
20	リアルタイムで学生の質問等に受け答えができない。
21	質問の返信はなるべく早くしてほしい
22	質問ができるような環境
23	すぐに質問しづらい
24	質問のしにくさ